

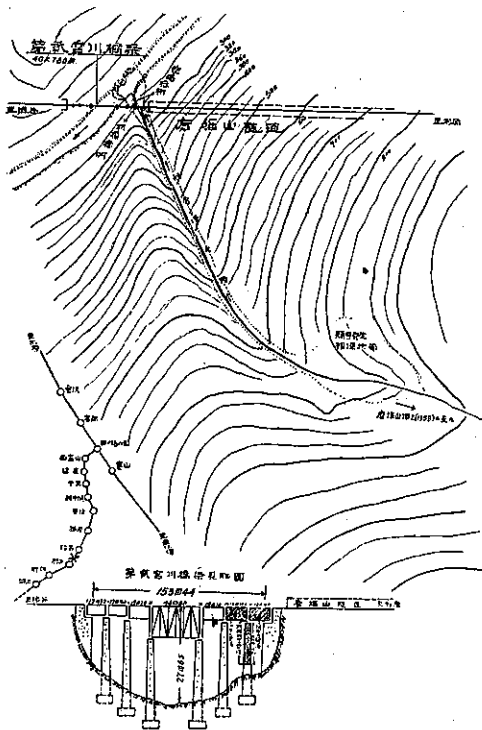
た勞苦に對し深厚なる敬意を表するものである。尙この機會に於て保線従業員の奮闘と併行して列車運轉の整理、工事列車の運轉等に日夜活動され復舊の促進に協力された金澤運輸事務所長、能生、筒石兩驛長その他關係従事員に對しても深甚の謝意を呈するものである。

飛越線猪谷・杉原間第二宮川橋梁の類雪被害

(本文に就ては會員工學士井上隆根君の勞を煩はしたり、茲に感謝の意を表す。)

去る 2 月 14 日午前 6 時 15 分、猪谷、杉原間 40.780 km 附近、唐堀山隧道口線路右側高さ 800 m の箇所から約 15 000 m³ の大類雪が襲來した。偶々隧道口に連続して第二宮川橋梁があるので、類雪は橋桁に激衝して 19.20 m の橋桁 2 連とその間の橋脚を破壊した。橋桁は 2 連とも 100 m ばかり河の中に跳飛ばされ、橋脚は上部から 8 m ばかりの所で剪斷されて橋桁と同一箇所迄轉落して居る。橋上の軌條は給の如く引捻切れられ、糸の如く河中に垂れ下つて見るも慘憺たる光景を呈した。橋桁 2 連の重量約 40 ton、折損したるコンクリートの橋脚の重量約 130 ton、計 170 ton の重量を 100 m も跳飛ばして居るのであるから、類雪の激衝力が如何に強大のものであつたかは想像に難くない。

第一圖 猪谷・杉原間第二宮川橋梁附近類雪發生箇所平面圖



第二圖 線路右側類雪滑走路(昭 9-2-14 撮影)



第三圖 墜落橋桁掘出作業(昭 9-2-14 撮影)



河中に崩落した類雪は河の全幅を埋めた爲、一時は流水を堰止め氾濫の虞さへあつたが、約 2 時間にして下部から疏通したから水害は起らなかつた。

河中に墜落した橋桁を再用する事は到底不可能と思はれたので、復舊用の橋桁を遠く東鐵管内から輸送して、折損橋脚の前後にはペントを建て、類雪の上に足場を組み間断なく降る吹雪の中で復舊工事を急ぎ 22 日に運轉を復舊した。